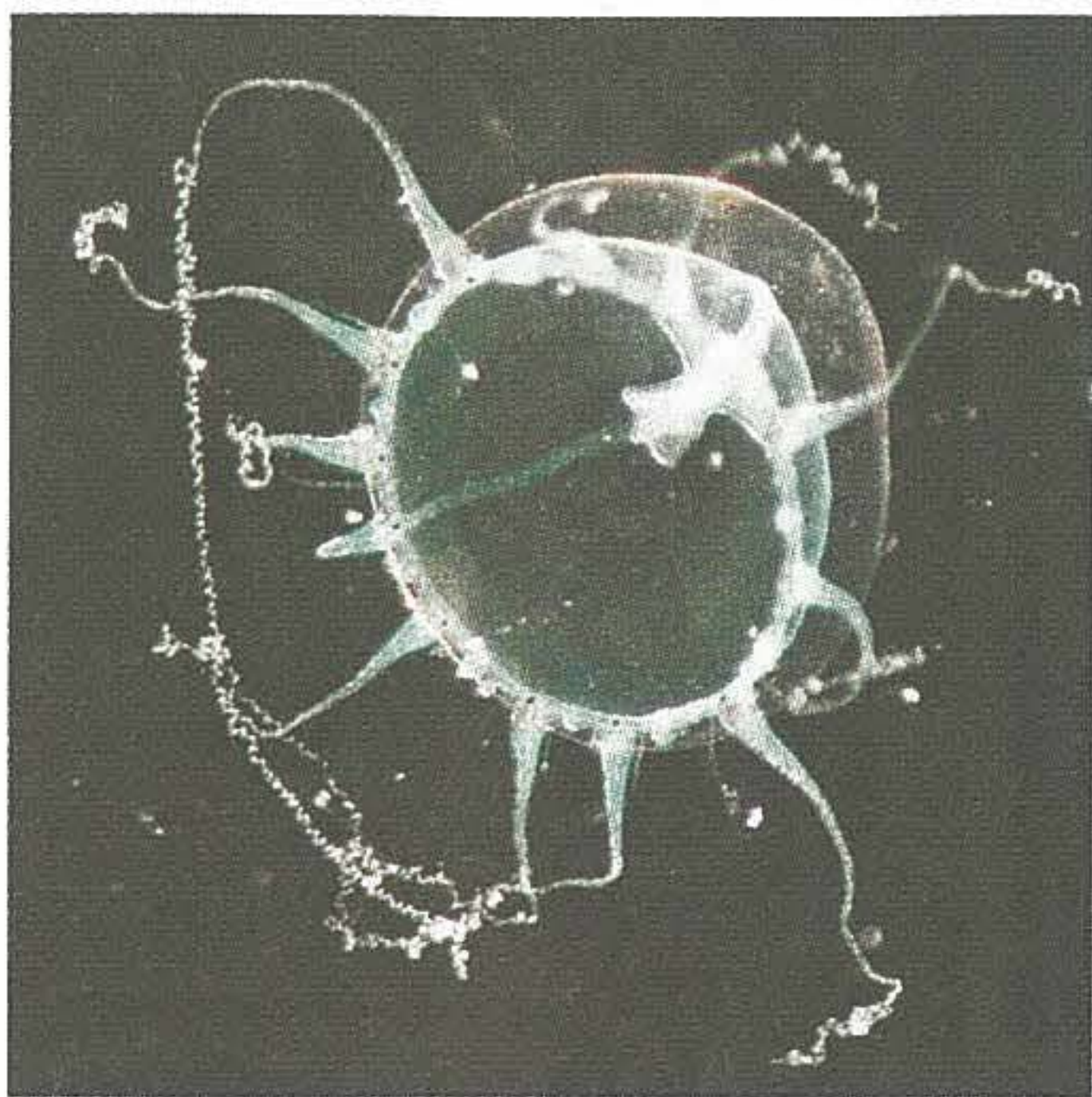


ヤワクラゲ



△
若返りが2番目
に確認されたヤ
ワクラゲ

若返るクラゲとして有名なのはベニクラゲだが、その親戚筋のヤワクラゲも筆者がかつて世界で初めて若返らせに成功した。動物の中で2番目の不老不死ということになる。

久保田 信

64



プランクトンであるクラゲからベントスであるポリプへと、生活史逆転を見事に、実験室でただ1回だけだが、証明した。この記録はほぼ同時にイタリアの研究仲間も成し得ている。

画像は田辺湾産のごく若いヤワクラゲである。傘径2ミリのほどなので、ポリプからクラゲとして遊離してまもない個体である。触手はまだ12本しかないが、成長すると10倍くらいにはなる。触手の根元の膨らみにそれぞれ1個ずつの黒い目がある。触手瘤(りゅう)の内側にあつて、これで光を感じることができ

る。

傘の縁には細い糸のようなものもたくさん生えてい

る。ヤワクラゲの一つの特徴だが、この機能もまだよく分かっていない。この糸状体は成長してもずっと残っていて、数も増える。傘の縁には変わった感覚器がたくさんあり、この画像では白色に光っている小さな部分である。

この若い個体と同時に、傘径4ミリの未成熟クラゲも田辺湾から採集された。ヤワクラゲは田辺湾で長年プランクトンネットをひいても、ごくまれにしか採れない。南西諸島を航海調査した時は、成熟クラゲなどもよく採れたので、亜熱帯性のクラゲだろう。

ヤワクラゲのポリプは田辺湾からまだ発見されていないが、このように若いクラゲがまれに採れるので、ポリプも田辺湾近隣に潜んでいる可能性が高い。

そのポリプは、ベニクラゲのように群体性でクローンをつくるが、花の部分がむき出しでなく、根の部分も茎も花もみな堅いキチン質の殻で覆われていてベニクラゲと異なる。(京都大学准教授)